



孕



はらませエシじえるっ!

「こ、これが念願の潤たんのマン!」
「はあっはあっ、も、もう辛抱たまらんっ!」

「やっっ、は、離してくださいさっ!痛っっっ!!」
「なっっ、何っをっっ、そっそんなの」
「入らなっ!あぁあぁっ!」

「あぁっこの膜を破る感覚最高っ」
「すぐに大人にしてあげるからね、潤たんっ」
「このまま一気に奥までっ!ぬんっ!」

「あぁあぁっ!だっ!だめっ!」
「お股っ!裂けちやっ!」
「あぁあぁあぁあぁっ!」



「ああ、きたきたきた精液きたっ
出る出るっ、潤たんの中に精液出るっ！」

「で…でる…っ…せ…せい…えき…?
な…何を…
あ…え…っ…な…何…これ…
な…何か…入ってくる…っ！」

「ああ、潤たんの赤ちゃん部屋に
精液トバトバ出てるわ〜」

「や…やだやだ…っ！
こ…こわい…っ、「わいよっ
も、もう…っ、や…やめ…っ
あ…あ…っ…あああああ…っ！」

W
W
W

W
W
W

W
W
W



「ふう〜めっちゃ出たわ…」

「…あ…う…ぐ…ひぐ…」

「あつ…ぐ、ごめんね潤たん
気持ち良すぎてつい…」

「…う…っ…も…もっ…
離して…ください…」

「っ、次は優しくするからねっ」

「…え…」



「はらみはらみ、いじむにんじむをねん
気持ちいいでござい」

「…あつ…はっ…あう…っ
い…痛い…です…っ
や…やめて…くたせ…い…っ」

「あれっ…おかしいなあ
じゃ、じゃあ」

「これはどうかなっ」

「…い…いや…もう…やめ…
あうううううう…
も…もう…いや…だ…誰か…
た…助け…っ…
あああああああっ…」

「あつ…はっ…あう…っ
い…痛い…です…っ
や…やめて…くたせ…い…っ」

「あつ…はっ…あう…っ
い…痛い…です…っ
や…やめて…くたせ…い…っ」



「うっっ、ま…また出る…っ」

「…あ…あ…あ…あ…っ…」

「はあっはあっ、ま、またイツっちゃった
ごめんね潤たん、俺ばっか気持ち良くなっ
て次こそは潤たんを気持ち良く
してあげるからねっ」

「…あ…う…あ…あ…」

「……………」

!!!

!!!

あはは

あはは

あはは

あはは

あはは

あはは



「あゝそろそろ出そうだわ」

「で……でるって……せ……精子……っ？
だ……だめ……っ……出しちゃ駄目っ！
赤ちゃん出来ちゃう！」

「あゝ無理無理もう止まらんって」

「せ……せめて外に……っ」

「あ、ごめんもっ出ちゃったわ
おっめっちゃ濃いのが出るわ出るわ」

「……………」



「…う…そ…ホントに…
な…中に…入って…」

「わリーわリーw
まあ心配すんなってっ
一回や二回の中出して
妊娠なんかしねえってw」

「…う…びぐ…ぐす…
…ほ…ほんと…？」

「まあ一回や二回で終わらない
んですけどねw」

「…え…」



「…あ…はっ…あう…っ
や…やめ…あああっ…」

「おいおい最初の頃の
威勢の良さはどこいったよw
まだまだこれからなんだから
もつと抵抗してみろやw」

「…あ…っ…あう…っ
た…助け…おにーちや…んうっ」



おん

おん

おん

お

あ

お

「オラ10発目えっ!」

「...あ...あ...あ...っ...」

「チッ、ノーリアクションがよ
まあいいわ、正気に戻った時に
絶望するくらいに精液まみれに
してやるからよ
金玉カラになるまで
出しまくってやるw」

「...おにおに...いちや...ん...
た...たすけ...っ...」



「もっ、もう出る……っ!!」
「めんね希美ちゃんっ、俺……もうっ!!」

「出るって……え……あ……え……?」
何……っ、これ……っ!!」
希美の中に……熱いのが入って……っ!!」

「希美ちゃん」めんっ、射精っ
全然止まらな……ぐっっっ!!」

「い……いや……っ
いやあああああああ……っ!!」



「…あ…は…ああ…っ
な…何だったの…今の…?
希美…どうなっちゃうの…!」

「だ、大丈夫だよ希美ちゃんっ
俺が教えてあげるから
二人で一緒に頑張る?」

「…う…あ…が…頑張る…っで…
な…何…を…」

「それはもちろん、
子作りに決まってるじゃない」

「…あ…え…?」



「はあっはあっ！
希美ちゃんっ、希美ちゃんっ！」

「あ…はっ…ああっ…や…
も…もう…やめ…
ああああっ！」

「だ、駄目だよっ、もっともっと
種付けしないと赤ちゃん
作れないじゃないっ」

「…の…希美はまだ…あうっ！
あ…赤ちゃん…なんて…
あああああっ！」





「まずは『発目だな…』
ぬ…っ、…ぐっっっ！」

「…あ…え…
なに…これ…
わたしの中に何か入って…」

「俺様の精液だからな
ありがたく受けとめるよっ！」

「あ…っ、…
お腹…熱…っ…
っ…」

NEW!



「オラもう一発いくぞおいっー」

「あああ……う……っ」

「あああ……あ……っ……」

「チッ、もうポンコツになりやがったか
まあ初日じゃこんなんもんか……？
しやあねえあと何発かやったら
休ませるかね」

「あああ……あ……っ……」

Ww!

Ww!

Ww!

Ww!

「はあっはあっ、流石潤たんっ
あつという間にイカされちゃったw」

「は…っ、あ…っ、はあっ…
い…いえ…わ…私も…そ…その…」

「潤たん、あのちゅ…」

「…はい…っ」

「も、もう一回…」

「…おっす♡」



「オラもう」発だっー」

「……………あ……………あ……………」

「……駄目だコイツ、完全にトんじまいやがった
まともなら相当稼げたんだがなあ……」

「……………あ……………」

「はあ、しゃあねえ捨てるか……」

「そういやコイツ兄貴がいるっていつてたな……
ぐひw兄貴の前にも捨ててみるかw」

「……………お……………」
「……………ちや……………」



「はあっ、はあっ、希美ちゃんっ
希美ちゃんっ、すきっ、好きいっ」

「んっ、ふっ、うっ、んっ
な…何度もっ、いっ、言わなはっ…」

「うっ、うめんでっ、でもっ
ホントに好きだからっ」

「わ、わかったからっ…っ
は、はやくっ、おっ、終わらせよ」

SO!

SO!





「そんなんだから出荷が遅れるんだっ
特別に俺様が調教してやつから
きつちり受け止めるよっ」

「aaaaaaaaa...」

「オラオラまだまだ
止まらねえぞー」

「あゝくゝん...
あゝ...」

M!

M!

M!

M!

M!



「オラもっ」発っっー」

「~~~~~」

「この程度でトぶんじゃねえぞっ
この先もっとイカれた奴等の
相手をする事になるんだからな
今のうちに慣れとけよっっー」

「~~~~~」

「もっもっっーっーっーっーっーっー
あああああああっ」

「んんん」

「んんん」

「んんん」